

貿易廳ニ關スル政府宛覺書(C.L.O經由)AG三四號(假譯)

昭和廿二年四月三日SCAP第五號

秘

一 本件ハ帝國政府ヲ代表シテ認可セラレタル貿易業務ノ遂行ニ當ルベキ機關ヲ同政府ニ於テ設置スベキコトニ關スル左記文書ニ關ス

(イ) 輸入物資ノ受領及配分ニ關スル責任機關ノ設置ヲ命ジタル昭和廿年十月九日附帝國政府宛經濟科學局覺書AG第〇九一三號第三項

(ロ) 昭和廿年十二月十八日附終戰連絡中央事務局覺書第 二七六(一三三)號

(ハ) 昭和廿年十二月十四日附勅令第七〇三號

(ニ) 昭和廿年十二月十四日附勅令第七〇四號

(ホ) 外國貿易決濟基金設置ニ關スル法律(昭和廿年十一月廿一日附議事録第廿六號(C))

二 昭和廿年十二月十八日附終戰連絡中央事務局覺書第 二七六(一三三)號記載ノ貿易廳ハ茲ニ日本貿易ノ全業務ヲ左記ニ從ヒ處理スベキ帝國政府ノ專管機關ト認ム

(イ) 貿易廳ノ全業務ハ聯合軍最高司令官ノ指示ニ基キ又ハ右ニ合致スル態様ニ於テ行ハルベシ

(ロ) 全貿易ハ聯合軍最高司令官ニヨリ特ニ除外セラレル場合ノ外貿易ノ廳ニ於テ帝國政府ニ代リ之ヲ處理スベシ

(ハ) 右以外ノ如何ナル政府機關、準政府的又ハ其他ノ團體若クハ協會又ハ帝國政府管轄下ノ人若クハ法人モ貿易ノ經由スルカ又ハ聯合軍最高司令官ニヨリ特ニ認めラレタル場合ノ外如何ナル貿易業務ヲモ營ムコトヲ得ズ

(ニ) 貿易廳ハ聯合軍最高司令官ノ指示ニ從ヒ總テ輸

出物資ヲ引渡シ又ハ引渡サシムベシ貿易廳ハ聯合軍最高司令官ノ指示ニ從ヒ輸入物資ノ引渡ヲ受ケ又ハ受ケシムベシ貿易廳ハ聯合軍最高司令官ノ特ニ別途認メタル場合、外同廳ガ帝國政府ニ代リテ充分ニシテ完全ナル權利ヲ取得シタル物資ニ付キテ、ミ輸出向トシテ引渡且引渡サシムベク又貿易廳ハ其ノ權利ヲ聯合軍最高司令官ノ指令スル所ニ從ヒテ移讓スベシ。貿易廳ハ聯合軍最高司令官ノ指令スル所ニ從ヒ帝國政府ニ代リテ輸入物資ニ付キ權利ヲ取得スベシ。

(木) 貿易ニ關スル一切ノ取引上ノ負擔危險「クレーム」其他ノ責任及債務ハ貿易廳ニ於テ引受クベシ

(ハ) 輸入物資ハ總テ現状ノ儘之ヲ引取ルベシ又聯合軍最高司令官ノ認メタル場合、外貿易廳及

帝國政府ハ當該物資ノ引渡ニ直接間接ニ影響スベキ品質、數量、條件又ハ其他ノ事項ニ關シ何等ノクレームモ主張シ得ズ

(ト) 貿易廳及帝國政府ハ一切他ノ政府政府機關及其ノ代表者ガ輸出又ハ輸入物資ノ買入賣却處分又ハ其他ノ操作ヨリ直接間接生ズベキ又ハ貿易業務ニ關聯シテ生ズベキ總テノ損失、經費、損害又ハ出費ニヨリ損害ヲ受クルコトナキ様措置スベシ

(ケ) 顧問評議員ヲ含ム局長以上ノ一切ノ貿易廳職員ノ任命ハ聯合軍最高司令官ノ承認ヲ受クベシ

昭和廿年十二月十八日附C.L.O 覺書第一二七六(一、二、三) 號別紙ニ記載セラレタル人事ニ關スル意見ハ早急ニ通報スベシ

三、貿易廳設置ニ關スル昭和廿年十二月十四日附勅令第

七。三號及之ニ關スル他ノ法律、命令、規則ハ左ノ事項ヲ實  
施スル爲ニ改正セララルベシ

(イ)貿易廳ハ「輸出物資準備申請書」又ハ「輸出物  
資引渡申請書」ヲ認可又ハ聯合軍最高司令官  
ニ依ル輸出命令ヲ發出ニ依リ聯合軍最高司令官  
ヨリ認メラレタル輸出物資ノミヲ買入ルベシ

(ロ)貿易廳ハ聯合軍最高司令官ヨリ提出セラレタル  
輸入物資總テ引取ルベシ同廳ハ他ノ者ヲシテ  
物資ノ受領ニ關スル行為ヲ爲サシムルコトヲ得  
ルモ聯合軍最高司令官ニヨリ別途指令セラ  
ル場合、外貿易廳帝國政府ニ代リテ取得スベ  
シ

(ハ)貿易廳ハ聯合軍最高司令官ノ指示及帝國政府ノ  
正當所管機關ニ依リ與ヘラレタル權限及右ニ依  
リ樹立セラレタル政策ニ準據シ總テ輸出及

輸入物資ヲ操作シ讓渡シ及受領スベシ

(ニ)貿易廳ハ前述第二項(ホ)ヲ實施スル爲凡ユ  
ル行為ヲ遂行シ及其、他必要ナル總テヲ爲  
シ得ベキ權限ヲ附與セララルベシ

(ホ)顧問ヲ一年ノ任期ヲ以テ任命スベシ

(ハ)顧問ハ通常一体トシテ(顧問局)行動スベシ顧問ハ  
多數ニ基キ行動スベク且一切ノ會議ノ記録ヲ保  
存スベシ貿易廳長官ハ一切ノ重要事項ニ付  
顧問ノ意見ヲ求ムベシ顧問ハ必要ニ應ジ長  
官ノ要求ニ基キ個々ニ又ハ委員會ノ委員トシテ  
業務運營ヲ遂行ニ付長官ヲ輔佐スベシ

四、輸入物資配分委員會設置ニ關スル昭和廿年十二月  
十四日附勅令第七〇四號及之ニ關スル法律、命令、規則ハ左  
記ヲ實施スル爲改正セララルベシ  
(イ)輸入物資配分委員會ハ常ニ聯合軍最高司令官

ノ指示及帝國政府一切、正當所管機關、政策ニ從  
ヒ輸入物資ノ配分ニ付貿易廳及帝國政府、其他、  
正當所管機關ニ對シ意見ヲ具申シ又ハ之ヲ輔  
佐スベシ

(ロ) 委員ハ貿易廳長官ニ意見ヲ具申シ又ハ之ヲ  
輔佐スルニ當リ個々又ハ一體トシテ行動シ得  
ベシ

五 外國貿易決濟基金(昭和廿年十二月二十日附議事  
錄第廿六號(C)ニ依リ創設)ノ額ハ貿易廳ノ任務  
遂行ニ付充分ナルベシ然シテ左記ヲ實施スル爲  
法律命令規則ヲ改正スベシ

(イ) 本基金ニ設定セラレル貸借金又ハ歳出經費ハ總テ  
聯合軍最高司令部ニ報告スベシ

(ロ) 本基金ハ貿易廳ノミ、利用ニ充ツベク且聯合軍  
最高司令官ニ依リ特ニ認メラレタル場合、外

上記第三項(イ)(ロ)ニ定メタル行爲、遂行ニ  
當リ合理的ニ生ジタル財政的義務ヲ履行  
スル爲ニ、貿易廳ノ命令ニ基キ支出サル  
ベシ

(イ) 輸入物資ノ賣却又ハ其他、處分ニヨリ直接  
間接生ジタル貿易廳ノ受領スル金額、總テハ  
外國貿易決濟基金、中ニ振込マルベク且前  
項ニ定メラレタル目的、爲ニ貿易廳ノ利用ニ  
充テラルベシ

(ニ) 輸入物資配分ヲ賄フ爲又ハ輸出物資ノ加工  
蒐荷、爲如何ナル貸付金モ外國貿易決濟  
基金ヨリ支出セラレバカラズ

(ホ) 本基金ハ直接間接タルトヨ問ハズ輸入物資  
補助金、爲ニ用フベカラズ

六 本覺書中ノ指示ヲ履行スルタメ貿易廳帝國

政府指定機關ト聯合軍最高司令部關係部局  
ト、間ニ直接、文書往復ヲ爲スコトヲ茲ニ認  
可ス  
七、本覺書ノ規定ハ聯合軍最高司令官ノ指令  
ニ依ル返還復舊賠償ニ付キ適用セズ

ビーエム・フイツチ

裏面白紙